繪圖

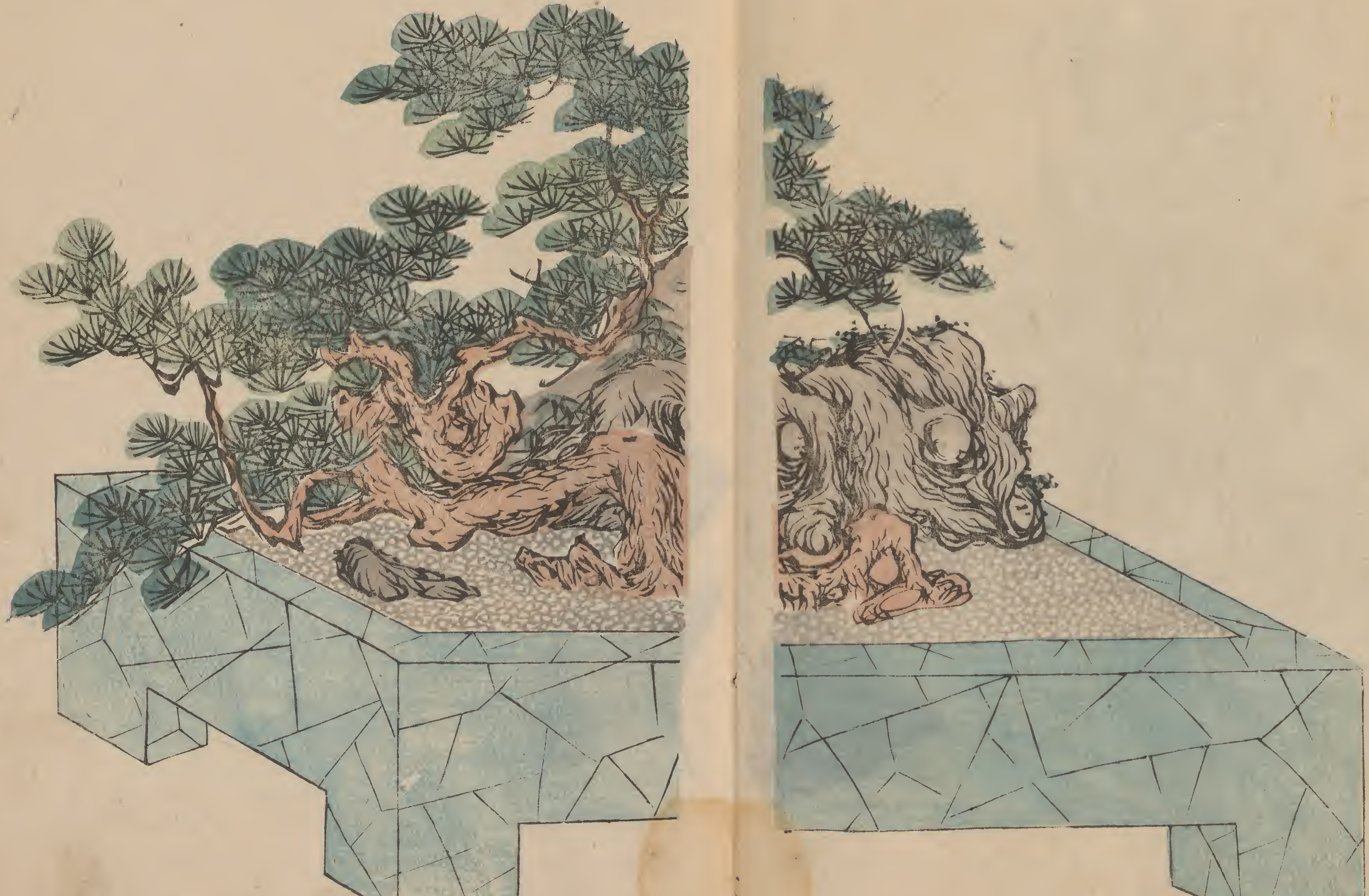
地

No. 2128
$ 4.77

373

716.5
.B9

2128 Two Volumes. "Senkeiban Zushuki" by Aizan.



松韻雜彈琴
泉流供洗毫

叉人木寺柏僊七十二翁書

若葉の雲ハ
たゝみしことおゝき
よおりの郷
石堂

孔直

世をいとふ人のこゝろ
丸のうきか乃
山ハ庭にもありゝゝふ
乃礼 正澄

若山氏所持

若山氏所持

孔宣

右図ある所のごとく盤中に土を置石樹を按排して。假山をあらハし是ハ漢名にハ占景盤といふ。占ハ章艶切音站囲有也ごとくまづの盤中にて好景を占るといふ名なり 或ハ縮景盤ともいふ。景色を盤中へちぢめてこゝろといふ名のこゝろえといへり。和名未これあらざ。本邦中古盆庭といへるものなり。ちハ銅盤磁盤の類をもつて池を造り水を貯ふるやうになせしものにて其趣たがへり。扨此景ハ盆にて培養むつかしく。かくの囲小盤中にうつしたる所なれバ四時の運行風寒暑湿よりうけるひところをもちひざれバ最損じ易し。水を灌ぐ事。初夏より以後八月中まてハ旦暮に二度づゝ

樹葉を除く。藁箒にて河水を打かけ。よく〳〵土にしめらせ置べし。願くハ貯る雨水を用意して灑ぎかけてよし樹根の辺ハ。土瓶などの口あるものにて灑ぎかくべし。また樹葉にも水かゝらバ。よく〳〵掃除べし。風ハ殊によく乾くものなれバ。風ある時ハ幾度にても水を灑ぐべし。雨水ハ連日といふとも厭ふことなし。井水ハ悪く金気あるものなれバ最是を忌べし。日ハいかほどにてもよろしかゝれ。夜ハ露をうけ星をいたゞき。風透よき所を撰べし

景盤造り様

○盤の底に川砂を三分ばかり入其上に山土を入よくしめし地をならし。さて石を居るなり。但し四方正面になるやうに造り立るを佳とす景致の按排。石樹の位置に至てハ。造る人の好ミにありといへども。何れの景なりとも定めるハあしく常に山水に於けるに佳景に逢バ。よく〳〵心に記し置て造る時に至て是を用ゆる時ハ自ら真に山水の気韻を帯て絶妙の景致をなすものなり是自然ハ人工に生まるゝ所以なり

石ハ

○清閑寺石 山城 ○臼杵石 豊后 ○播岳石 肥前平戸
○熊野石 紀伊 ○平林石 淡路 ○鞍馬墨石 京
○加茂川石 京 ○葛城石 大和 ○黒石 伊豆
○土佐石 ○支那石 此外諸國より出る
所名石多し。但し國々の石けしき交へ用ゆるとも。
大かた色の揃ふ様にすべし。色のかはりたるを
あしゝ。又對馬石。瀬戸石の類ハ。海石故。苔付がたく
し心得て用ゆべし
植物ハ

○檜 ○黄楊 雄黄楊よし。通例葉うすきものハあしゝ。 ○雲泉皐月
○雪柳 夷花咲を山桜やうにみるべし。秋ハ紅葉也。 ○肥後蔦 江戸づたともいふ
○定家蔓 摂州箕面勝尾寺より いづるものをよしとす。 ○松 造り木はあしく。芽生の儘植べし
○杉苔 此外見合植べし
蒔石ハ
○兵庫砂礫 ○雲州あら島土ざや王
見様ハ
○蔦蔓其外にても。石につきたるハ。遠山の樹木とみるべし
○蒔石ハ陸とも。盤とも。景致によりて見るべし。

橋。舟。水鳥なども居時ハ。川などによし

盤中置物ハ

○樓。塔。亭。門。洞。鈴。人物。漁人物を置べし。僧人物置べからず。舟。橋

水禽。獣。類などを楽焼を佳とス

掃除ハ

○毎年春二月頃。秋八月頃。苔を土黒くある。

木の葉など落かゝりて見苦しくなるべし。此時蘚石を取

除て水にて洗ひ日に乾し置。土は黒きを捨ふて是を

げんさいは山土を入て凹凸をなし見よきやうに苔を植べし

故武禅翁画中の餘技に石を好み盤

あそて盤中に石を置砂を布き

小樹を植て天然の小景を造る故に大江

坂先生の曰是漢ノ石台景盤といふなり

是より後好事の人の需に應じて

彼景盤を造る事凡百餘盤に及べり是を

手送風世に流行して楽師の此翁の

造り置しる石景の図を求る事の毛さし

かゝけれハこゝろひ三十餘題の景を寫し
避ろを積ミ上木して同癖の人の慰近を
助んとするをハいとをこかましきさな
めれといはき風流の韻ミなれとあ凡のち
まも梓せんしてその美尾まるものよし哉
かいはくるのミ

愛山 [印] [印]

文政九年丙戌六月發兌

京都寺町通御池上ル 鉛屋安兵衛
江戸通油町 鶴屋喜右衛門
大阪心齋橋通唐物町 河内屋太助
同 心齋橋通北久太良町 鹽屋忠兵衛
同 呉服町御靈筋角 玉屋市兵衛
同 江戸堀二丁目 今津屋辰三郎

書林 梓

着驪三 幸助

上紙弐拾九枚内